

はじめに

子どもが苦手だった私は、わが子のおかげで見る世界が変わりました。

歯科衛生士として20年、幅広い年代の方と本当に多く関わらせていただきました。卒業後、すぐに最先端の技術や医療機器を扱う大手医療法人に就職し、当時は珍しかったインプラント治療や自費のメンテナンス業務に携わってきました。留学のために退職し、帰国後は歯周病治療を極めたくて日々邁進し、フリーランスの歯科衛生士として活動していました。

そう、ほとんど子どもと関わることはない歯科衛生士人生でした。そんな私が、なぜ子育てと歯科をリンクさせるべく活動をしているのか。それは、自身の子どもを出産し子育てをするようになったからです。子育てを学ぶために取得した育児インストラクターの資格をきっかけに、子どもの心と体の発達について興味が湧き、深く学ぶようになりました。

その学びから、近年の子どもの歯並びや虫歯、歯肉炎の影響はまさしく子どもの心と体の栄養状態に比例する。ということを確認し、現在は「口・体・心」を育てる小児の予防に特化した歯科衛生士育成

プログラムを導入する他、セミナーやイベント運営などの子育て支援、さらには子ども用オーラルケア用品の企画販売を行う会社を設立いたしました。

□元から何がわかるの？ と疑問に思われる方はいらつしやるかもしれませんが、口元と体と心は密接につながっているなんて、あまりイメージできませんよね。そのうえで、はつきりと確信していることがあります。それは「口は結果」なのです。ドキッとする言葉かもしれませんが、歯並びが悪くなる、虫歯になる、歯肉炎は突然なるわけではなく、それまでの過程があり、その過程を辿るための原因が必ずあります。

そう書くと、これらのことがお子さまのお口の中に表れている場合、今までの育て方が悪かったのかな、とか何がダメだったんだらう、とネガティブな感情になってしまいうママもいらつしやるかもしれませんが。しかし、決してそうではなく、わが子が愛おしくて愛おしくてたまらなく、愛情に溢れているがゆえの結果だと思おうのです。

多くのママは自分のことを後回しにするのが当たり前になるくらい、毎日一生懸命に家事や育児をして1日をやり過ごします。睡眠だつて十分に取れていないこともあるでしょう。そんな環境のなか、例えばお子さんが虫歯になったとしたらどうでしょうか。私は、ママが責任を感じる必要性はないと思

ます。

大切なのは、私たち歯科衛生士がその環境をも理解して受け入れることで、ママを救うことなのではないでしょうか。ママを救うことは子どもを救うことになります。

歯科医院が子育てをサポートする場所となり、ママに寄り添う歯科衛生士が一人でも増えると、多くのママを救うことができます。そうなれば、子どものお口のトラブルや心身のトラブルも減ってくるはずです。だからこそ、歯科はもつと子育ての分野に介入する必要がある、子育て中のママはもつと歯科医院を頼る存在になつてほしい。そんな社会に変わることを願い、本書をお届けいたします。